

組織目標評価報告書（令和2年度）

部局名:

薬学部

部局長名:

三好 伸一

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>【入試の実施状況】</p> <p>①昨年度に引き続き、志願者確保に向けて、薬学部教員が高校訪問を行い、入試説明、薬学部紹介を行うとともに、進路指導の教員に対し薬学部についての説明を行う。</p> <p>②昨年度に策定した選抜方法に従い2021年度入試を実施し、受験者及び合格者の動向分析を行うことで、選抜方法等についての更なる検証を行う。</p> <p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】</p> <p>①教員の教授法の向上のため、授業参観を励行し、教員間のピアレビューを実施する。</p> <p>②撮像データやMoodle システム等を利用したメディア授業を強化することで教育体制を充実させるとともに、教員の教授法に関する見直しと自己評価を実施する。</p> <p>③2021年度に延期となった第2期薬学教育第三者評価(分野別認証評価)に向けた自己点検・評価を実施することにより、組織的なPDCAを行い教育の質を保証する。</p> <p>④各種サポートが必要な学生(病気、障害、不登校等)の学習・単位修得状況を把握し役立てることで、学生支援体制を強化する。</p> <p>【教育方法・内容】</p> <p>①遠隔講義システムを鹿田地区と津島地区にまたがる高年次生授業等に活用する。</p> <p>②学生の研究指向性を高めるため、1・2年生が研究室において短期間の基礎実験・研究を行う「薬学研究入門」を今年度も開講する。</p> <p>【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】</p> <p>①大学院入学試験(4年制)及び薬剤師国家試験(6年制)の合格率向上に関する取り組みについて、これまでの方法の検証と改善を行う。</p> <p>【国際共同による教育】</p> <p>①世界的なCOVID-19感染状況を考慮し、以下の短期海外派遣プログラムについては実施時期を見極める(何れも薬学部「グローバルスタディ2(2単位)」)。</p> <p>(1) キャンパスアジア事業「先端医療応用コース(薬)(成均館)」(大学院生を含め6名を派遣)</p> <p>(2) 高度先導的薬剤師養成事業「海外研修プログラム(サン・カルロス大学)」(大学院生を含め5名を派遣)</p> <p>(3) 医療系キャンパスとして合同で実施する「多分野医療系学生の共通経験を通じた医療連携グローバル人材育成プログラム」(薬学部として2名を派遣)</p> <p>②世界的なCOVID-19感染状況を考慮し、以下の海外からの短期受入プログラムについては実施(申請)時期を見極める。</p> <p>(4) キャンパスアジア事業「先端医療応用コース(薬)(成均館)」(成均館大学から大学院生を含め6名を受入れ)</p> <p>(5) JSTさくらサイエンスプラン短期受入事業(サン・カルロス大学から6名を受入れ)</p> <p>③COVID-19収束後における上記(1)～(5)の派遣・受入プログラムの再実施に向けて、協定校・協定機関との情報交換を行う。</p> <p>【外国人留学生の受入状況】</p> <p>①薬学部(創薬科学科)に2021年度も私費外国人留学生を受入れるとともに、在学中の私費外国人留学生(2019年度入学:3名、2020年度入学:2名)の就学支援を組織的に行う。</p>	<p>【入試の実施状況】</p> <p>①コロナ禍のため実施が困難であったが、その中において、山口県、香川県、兵庫県、岡山県内の公立・私立高校にて、入試説明、薬学部紹介を行うとともに、進路指導の教員に対し薬学部、特に薬学科・創薬科学科の相違・特徴についての説明を行った。</p> <p>②昨年度に策定した選抜方法に従い2021年度入試を実施した結果、総合型選抜における設問に更なる工夫が必要であること、薬学科における面接導入の妥当性が確認された。</p> <p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】</p> <p>①教員の教授法の向上のため、授業参観を励行し、教員間のピアレビューを実施した。</p> <p>②撮像データやMoodle システム等を利用したメディア授業を強化することで教育体制を充実させるとともに、教員の教授法に関する見直しと自己評価を実施した。</p> <p>③2021年度に延期となった第2期薬学教育第三者評価(分野別認証評価)に向けた自己点検・評価を実施することにより、組織的なPDCAを行い教育の質の保証を行った。</p> <p>④各種サポートが必要と思われる学生(病気、障害、不登校等)に対して、担任、保健管理センターおよび学生総合支援センターとの連携を図り、合意された合理的配慮文書を作成し、科目担当者に正式に依頼できる枠組みを構築した。</p> <p>【教育方法・内容】</p> <p>①遠隔講義システムを鹿田地区と津島地区にまたがる高年次生授業等に活用した。</p> <p>②学生の研究指向性を高めるため、1・2年生が研究室において短期間の基礎実験・研究を行う「薬学研究入門」を開講した。</p> <p>【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】</p> <p>①大学院入学試験(4年制)及び薬剤師国家試験(6年制)の合格率向上に関する取り組みについて、これまでの方法の検証と改善を行った。</p> <p>【国際共同による教育】</p> <p>①世界的なCOVID-19感染状況が改善しなかったため、以下の短期海外派遣プログラムについては実施を見送った(何れも薬学部「グローバルスタディ2(2単位)」)。</p> <p>(1) キャンパスアジア事業「先端医療応用コース(薬)(成均館)」(大学院生を含め6名派遣を計画)</p> <p>(2) 高度先導的薬剤師養成事業「海外研修プログラム(サン・カルロス大学)」(大学院生を含め5名派遣を計画)</p> <p>(3) 医療系キャンパスとして合同で実施する「多分野医療系学生の共通経験を通じた医療連携グローバル人材育成プログラム」(薬学部として2名派遣を計画)</p> <p>②世界的なCOVID-19感染状況が改善しなかったため、以下の海外からの短期受入プログラムについては実施(申請)を見送った。</p> <p>(1) キャンパスアジア事業「先端医療応用コース(薬)(成均館)」(成均館大学から大学院生を含め6名受入れを計画)</p> <p>(2) JSTさくらサイエンスプラン短期受入事業(サン・カルロス大学から6名受入れを計画)</p> <p>③COVID-19収束後における上記の派遣・受入プログラムの再実施に向けて、協定校・協定機関との情報交換を行ったが、現状での判断は不能との認識で一致した。</p> <p>【外国人留学生の受入状況】</p> <p>①薬学部(創薬科学科)に2021年度も私費外国人留学生を受入れるために私費外国人入試を実施した。創薬科学科に在学中の私費外国人留学生(2019年度入学:3名、2020年度入学:2名)の就学支援を組織的に行った。</p>
<p>②研究領域</p> <p>「大学院医歯薬学総合研究科 薬学系」に記載</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>【国際交流・協力】</p> <p>①成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)との連携をさらに深めるとともに、交流協定(新規)締結に向けてバンメート大学(ベトナム)との協議を進める。</p> <p>【地域社会との連携、社会貢献】</p> <p>①薬剤師及び一般社会人等を対象とした薬学部公開講座の開催等を通じて、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努める。</p> <p>②地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育の実施、岡山県薬剤師研修協議会と連携した各種薬剤師研修事業への参画を推進する。また、中高生の薬学への理解を深めるための連携事業を推進する。</p> <p>③各種講演会等にあわせて薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。</p> <p>【その他】</p> <p>①同窓生の交流を推進するため、岡山大学ホームカミングデーにおいて、卒業生と在学生在が交流する機会を設ける。また、同窓生との交流を継続化するためのシステムを構築する。</p>	<p>【国際交流・協力】</p> <p>①成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)、バンメート大学(ベトナム)との連携をさらに深めるための相互訪問は世界的なCOVID-19感染拡大のため実施できなかった。</p> <p>【地域社会との連携、社会貢献】</p> <p>①薬剤師および一般社会人等を対象とした薬学部公開講座、高校生および一般社会人を対象とした公開講演会を計画したが、COVID-19感染拡大により今年度は中止した。COVID-19感染拡大の状況下においても最新情報の提供と知識の向上・啓発をオンライン、対面の両面で行うよう対策を進めた。</p> <p>②岡山県薬剤師研修協議会等、地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育を計画したが、COVID-19感染拡大により今年度の実施を断念した。高大連携事業については当初は中止または延期していたが、7月以降はオンライン形式により再開し、岡山大学薬学部での研究や求める学生像を周知した。また、岡山大学附属中学校の大学訪問もオンライン形式で実施し、薬学部の取組や薬剤師の役割について講義を行った。オンライン開講により例年(10名程度)よりも多くの生徒の参加(50名程度)が得られた。</p> <p>③公開講演会、公開講座、ホームカミングデー2020等にあわせて薬用植物園の一般公開を実施する計画であったが、COVID-19感染拡大により今年度の実施は断念した。</p> <p>【外国人留学生の受入状況】</p> <p>①薬学部(創薬科学科)に在学中の私費外国人留学生(2019年度入学:3名、2020年度入学:2名)の就学支援を組織的に行った。</p> <p>【その他】</p> <p>①ホームカミングデー2020において、卒業生・在学生在等をターゲットとした同窓生シンポジウムを開催する予定であったが、今年度の実施は断念した。中止に至った経緯などをホームページで告知し、卒業生との連携を進めるべく広報に努めた。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p>【部局運営体制の改善強化】</p> <p>①本学や本学部の課題について、関連する委員会等と共有するとともに、解決に必要な情報を継続的に発信することを推進する。</p> <p>【部局組織の活性化】</p> <p>①人事を含む将来計画に基づき、研究分野の整理と統合を推進し、教授・准教授・助教の体制構築に努めるとともに、優秀な若手人材の積極的な確保に努める。</p> <p>②主要委員会等の委員として、若手教員や新任教員等を適切に配置することを目指す。</p> <p>【ダイバーシティの推進】</p> <p>①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討する。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】</p> <p>①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を目指す。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】</p> <p>①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。</p> <p>【施設整備の推進】</p> <p>①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進する。</p> <p>【法令遵守の徹底】</p> <p>①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図る。</p>	<p>【部局運営体制の改善強化】</p> <p>①本学や本学部の課題について関連する委員会等と共有した。また、当該課題の解決に必要な情報を継続的に発信した。</p> <p>【部局組織の活性化】</p> <p>①人事に関する将来計画に基づき、研究分野の整理と統合の推進、教授・准教授・助教の体制の構築、優秀な若手人材の積極的な確保に努めた。</p> <p>②主要委員会等の委員として、若手教員や新任教員等の適切な配置を進めた。</p> <p>【ダイバーシティの推進】</p> <p>①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討し、昨年度着手した女性教員1名の内部昇任を8月1日付で完了した。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】</p> <p>①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を行った。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】</p> <p>①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。</p> <p>【施設整備の推進】</p> <p>①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設を点検し、機能改善の整備を進めた。</p> <p>【法令遵守の徹底】</p> <p>①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図った。</p>